

伊丹ルーテル教会四旬節第5主日礼拝

2021年3月21日

前奏：

招きのことば：詩編51編5-15節

あなたに背いたことをわたしは知っています。わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。
あなたに、あなたのみこ わたしは罪を犯し 御目(おんめ)に悪事と見られることをしました。
あなたの言われることは正しく あなたの裁きに誤りはありません。
私は咎のうちに産み落とされ 母が私を身ごもったときも 私は罪のうちにあったのです。
あなたは秘儀ではなくまことを望み 秘術を排して知恵を悟らせてくださいます。
ヒソプの枝でわたしの罪を払ってください わたしが清くなるように。
わたしを洗ってください 雪よりも白くなるように。
喜び祝う声を聞かせてください あなたによって砕かれたこの骨が喜び躍るように。
わたしの罪に御顔を向けず 咎をことごとくぬぐってください。
神よ、わたしの内に清い心を創造し 新しく確かな霊を授けてください。
御前からわたしを退けず あなたの聖なる霊を取り上げないでください。
御救いの喜びを再びわたしに味わわせ 自由の霊によって支えてください。
わたしはあなたの道を教えます あなたに背いている者に 罪人が御もとに立ち帰るように。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝もともに礼拝にあずかり、あなたのみ言葉をいただいて一週間を始めます。ここであなたの赦しをいただきます。新たにいのちをいただきます。ここから感謝をもって新しい一歩を踏み出します。あなたはみ言葉を聞く私たちをここから送り出してくださいますが、あなたはまた私たちの日々の生活の現場に来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそあなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**。

使徒書朗読：ヘブル人への手紙 5章 5-10節

同じようにキリストも、大祭司となる栄誉を御自分で得たのではなく、「あなたはわたしの子、わたしは今日、あなたを産んだ」と言われた方が、それをお与えになったのです。また、神は他の個所で、「あなたこそ永遠に、メルキゼデクと同じような祭司である」と言われています。キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となり、神からメルキゼデクと同じような大祭司と呼ばれたのです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 12章 20-33節

さて、祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいた。彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のフィリポのもとへ来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。フィリポは行ってアンデレに話し、アンデレとフィリポは行って、イエスに話した。イエスはこうお答えになった。「人の子が栄光を受ける時が来た。はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその

人を大切にしてください。」「今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、わたしをこの時から救ってください』と言おうか。しかし、わたしはまさにこの時のために来たのだ。父よ、御名の栄光を現してください。」すると、天から声が聞こえた。「わたしは既に栄光を現した。再び栄光を現そう。」そばにいた群衆は、これを聞いて、「雷が鳴った」と言い、ほかの者たちは「天使がこの人に話しかけたのだ」と言った。イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためだ。今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」イエスは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、こう言われたのである。

讚美歌 332 番

- 1 主はいのちを 与えませり、主は血潮(ちしお)を 流しませり。
その死によりてぞ われは生きぬ、われ何をなして 主にむくいし。
- 2 主は御父の もとをはなれ、わびしき世に 住みたまえり。
かくもわがために 栄えを 捨つ、われは主のために なにを捨てし。
- 3 主は赦しと いつくしみと 救いをもて くだりませり。
ゆたけき たまもの 身にぞあまる、ただ身とたまとを 献げまつらん。 **アーメン**

説教：「一粒の麦は死ねば多くの実を結ぶ」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

四旬節の第5主日です。イエス・キリストが私たちのためにその身に負ってくださった苦しみを覚えます。イエス様は「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」と言われました。ご自分のいのちを一粒の麦になぞらえて語っておられます。また、私たちにも人生の幸いが何を一番優先して歩むところにあるかを教えておられます。

一粒の麦は、そのまま、おいておかれると一粒のままです。けれどもこれが地にまかれると、この一粒の種はその姿を失い死にます。そして芽を出して多くの実を結びます。イエス様はご自分が十字架にかけられて死ぬことによって、人々に永遠の命が与えられることをお語りくださっています。小麦の栽培が盛んであった当時の人々の暮らしに密着した、とても分かりやすいたとえです。イエス様が私たちのために死んでくださることを言っておられる、たいへん大切なことばです。

イエス様が一粒の麦のたとえをなさる前に、ギリシャ人が会いに来たと記されていました。エルサレムでのことです。イスラエルの人々のお祭りに来ていたギリシャ人は、おそらく神様を

おそれる人々、つまり聖書の神様を信じたギリシャ人だったのでしょう。フィリポはギリシャ人の名前を持っていたのでイエス様に取り次いでほしいと願ったようです。アンデレとフィリポがイエス様にお願いすると、イエス様がこのお話を始められました。イスラエルの人とギリシャの人の両方、つまり全世界の人のためにイエス様が苦しみを受けることを教えました。

イエス様は、人の子が栄光を受ける時が来た、とまず言われました。人の子、とは旧約聖書で救い主をあらわすことばでした。イエス様はご自分のことをさして、人の子、と言われます。これまで、2章のカナの婚礼のときも、7章のお祭りに行かれたときも、まだわたしのときは来ていない、と言われていましたが、ギリシャ人が会いに来た、という知らせを聞いてイエス様は、ご自分が栄光を受ける時が来た、と言われました。ついに、時が満ちた、というのです。栄光ということばですぐに私たちが連想するのは、はなやかなスポットライトを受けて褒められることです。しかし聖書で栄光とは、その方のもともとの輝きがあらわになるということです。その人のその人としての在り方があらわになるのです。イエス様は、クリスマスに神様であったのに人間になってくださいました。イエス様が人として私たちのところに来てくださったそのそもその目的を果たすことが栄光です。そしてそのイエス様が栄光を受けるそのときがついにもうそこまで近づいた、というのです。

イエス様の栄光は十字架で一粒の麦のようにいのちを与えること、死ぬことでした。イエス様はすぐあとで、わたしは心さわぐ、と言われました。ご自分をおつかわしになった父なる神様に、わたしを救ってください、と願おうか、とも言われました。ゲッセマネの園で血の汗を流して祈られた祈りを思い起こします。しかしすぐに、いや、わたしはまさにこのときのために、十字架でいのちを与えるために来た、父なる神様はそのためにわたしをつかわした、とおっしゃいました。父なる神様の栄光は、私たちを救うためにイエス様を人としてお送りくださり、イエス様の上に私たちのすべての罪をおいてお裁きになるというみこころです。これが聖書の全体のメッセージです。父なる神様はギリシャ人にもユダヤ人にも、男性にも女性にも、すべての人にイエス様によって罪を赦してほんとうの命をあたえ、ご自分の子どもとして生きるすくいを与えられることが神様のもともとのお考えです。それが神様の輝きであり栄光なのです。

父なる神様は、これまでイエス様の歩みの中にご自分のみ旨をしめしてこられたことと、これから再びその栄光をイエス様が一粒の麦のようにご自分のいのちをあたえてくださることであらわしてくださるといわれました。イエス様には、心がざわざわ騒ぐような、神様からも人々からも見捨てられる屈辱的で恐ろしい十字架が目前に迫っていました。ついに、これまで神の民とされていなかったギリシャ人がイエス様に会いたいと近づいてきました。イエス様はイスラエルの人々のためにも、そしてギリシャ人をはじめすべての人のためにも、その罪を背負って十字架にかかってくださるときがついに来たといわれました。イエス様が十字架にあげられるとき、この世が裁かれ、世を支配するものが追い出され、イスラエルの人々もギリシャ人も、

すべての人をご自分のもとに引き寄せてくださいます。イエス様が十字架にかかって死んでくださったとき、全世界の人を救う神様の御心がなつたのです。またイエス様が人として私たちの間に宿ってくださった目的が果たされたのです。

まことの神様であられながら、私たちのためにまことの人となってくださったイエス様は、人として死を前にしておびえておられます。死を受け入れることは決してたやすいことではありません。イエス様は人間として私たちと同じ思いをお持ちです。しかし、イエス様はそのために来られた、それがイエス様の本来のお姿であり、栄光である、と言われていています。イエス様は偶然の重なりでたまたま十字架につけられたのではありません。また、敵たちの思惑がうまく実現して十字架につけられたのでもありません。イエス様はまさに人々の罪のために十字架にかけられて死んでくださるために、その苦しみを覚悟して歩いておられるのです。光り輝く栄光というのは、イエス様の場合は十字架で私たちのために苦しみ死んでくださることでした。

ここで私たちはイエス様の苦しみが、わたしのため、わたしたちのためであったことを覚えます。私たちは父なる神様からそれほど大切にされています。私たちはイエス様からそれほど大切にされています。なんというありがたいことでしょうか。わたしが救われるため、わたしの罪の償いのため、わたしの永遠のいのちのために、イエス様がそのいのちを一粒の麦のように与えてくださいました。それはわたしの内に神の子どもとしての新しいいのちが与えられるためだったのです。イエス様のみ苦しみをたどりながら、そこまでしないと赦され、救われない私たちの罪の重さを知るのです。そして私たちはそこまでしてわたしを大切にしてくださいっているイエス様のみ思いに触れるのです。あなたもイエス様に愛されています。

私たちは洗礼によってイエス様が十字架の死によって与えてくださった罪の赦しにあずかります。また洗礼によって死からよみがえってくださったイエス様の復活のいのちにあずかります。イエス様の弟子とされ、神様のものとなります。そこから私たちの新しい歩みが始まり、保たれていきます。

イエス様と弟子たちの関係は、ただ教えを受けるだけではなく、主のおられるところにとともにとどまることでした。イエス様のいかれるところについていきます。私のために死んでよみがえってくださったイエス様を救い主であり主とするのです。

それで私たちも苦しみや犠牲を予感するときに同じように祈ります。この苦しみをとりつけてください、と必死になります。どうしてこのようなことがわたしに起こるのか、と絶望的になります。主であるイエス様も十字架を前にして、この苦しみをとりつけてください、と祈っておられます。しかし、そのあとすぐイエス様は、神様の御心が自分の身になるようにと祈られました。そうです。わたしのすべてを神様はご存じです。また、わたしの出会っているすべて

のことを神様はご存じです。そして私が直面するこの苦しみの中で私が私の本当の姿を見ることができるようになってください。そこで思い知るような私の自己中心でわがままな罪、自分自身を握りしめていてかたくなさです。苦しみを前にして私たちは普段奥底に隠れている自分の本来の姿を見せられます。何を愛してきたのか、何に信頼してきたのか、何を一番恐れているのかという私たちの霊のすがたです。そしてそこに人として苦しみを味わい、十字架でわたしのかわりに死んでくださったイエス様と出会いなおします。私たちはまさにその罪びとのわたしを神様がイエス様によって赦してくださることをあらためて受け止めさせてくださるのです。苦しみや犠牲を予感するとき、わたしたちはこの苦しみのなかでイエス様の栄光をしめしていただきます。

さらに、神様のあたらしいのちによってその苦しみに向き合っ、そこから逃げないで歩み切る愛と知恵と力を与えてくださいます。自分のうちにあるすべてのものを集めてもとうてい乗り越える愛や知恵や力はありません。罪を赦し、新しいのちを与えてくださるイエス様は私の主として導いてくださいます。ほんとうに自分は生かされている、ここにいる、神様に大切にされている、と感謝する思いが不思議と大きくなっていくのです。イエス様の栄光がここで大きくなっていきます。

イエス様は「自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。」と言われました。自分を愛するもの、憎むものということばで私たちに教えてくださっています。自分の命を愛する私たちですが、苦しみの中でイエス様のご栄光に接し、かたくなで自分中心なわたしの罪がイエス様の犠牲によって赦されることによって、イエス様のおられるところにとどまり、イエス様について行くものとされました。この世で自分のいのちを憎む、というのはそのような意味です。

あなたは何を優先して毎日歩んでおられますか。自分の思いのなることを、つまり自分中心な栄光を求めていますか。人々から認められること、人々と仲良くすること、自分の願いがなうことを最優先して歩んでおられますか。イエス様はあなたのために死んで、よみがえってくださいました。そのイエス様の死と復活が自分のためだったと信じるなら、イエス様を最優先して歩む弟子となります。イエス様の栄光をあらわす歩みをします。自分の栄光ではなく、イエス様によってつくられた新しい命が輝くように願います。あなたが自分のわがままにかたくなにこだわることに死んで、イエス様のために生きることで多くの実が実ります。一粒の麦となって多くの実を結ぶ歩みです。思い通りにならない苦しみがあることで自分の暮らしが滞っている、というではありません。それがあなたの歩みです。そこで、主よ、たしかに苦しみがあります。ここであなたの栄光があらわれますように、と祈って歩みましょう。あなたの生涯を、神様の手にまかせること、自分の思いをゆだねて神様の栄光に従って歩むところにほんとうのいのちがあります。それはあなたの毎日の生活の中心となります。

ご一緒にこの一週間実を結んで歩みましょう。ともにお祈りしましょう。「主イエス様、わたしのために苦しんでくださり感謝をいたします。どうぞ私が神様の子どもとして、あなたの栄光をあらわして生きるものとしてください。主イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってくださいます。アーメン。

讚美歌 333 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 主よ、われをば とらえたまえ、さらばわが霊(たま)は 解き放たれん。
我が刃(やいば)を 砕きたまえ、さらばわが仇(あだ)に 打勝つをえん。
- 2 わが心は さだかならず、吹く風のごとく たえずかわる。
主よ、御手もて ひかせたまえ、さらば直きみち 踏み行くを得ん。
- 3 我が力は 弱く乏し、暗きにさまよい 道になやむ。
あまつ風を 送りとまえ、さらば愛の火は 内にぞ燃えん。
- 4 我がすべては 主のものなり、主はわが喜び、また幸(さち)なり。
主よ、御霊(みたま)を満たしたまえ、さらば永遠(とこしえ)の安きを受けん。 **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊(みたま)のちからよ、あぁみ栄えよ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏